

古墳～飛鳥時代

被災遺跡 **山畑横穴群**



西側崖面の崩壊による落石。

⑫史跡山畑横穴群 (大崎市三本木)

7～9世紀に造られた横穴墓で、26基確認されています。うち3基には、遺体を安置する玄室に文様が描かれており、日本最北の装飾横穴墓として知られています。崖面の崩壊や落石等が発生しましたが、幸い、横穴墓に被害はありませんでした。現在、崖面の保存対策工事を実施しています。



被災状況と復旧事業の概要

奈良～平安時代

被災遺跡 **多賀城跡**



重要な政務や儀式、宴会などをおこなった政府の中心である正殿の基壇(建物の土台)の被害状況。

⑬特別史跡多賀城跡 (多賀城市)

奈良・平安時代の陸奥国府である多賀城跡では、中央の政庁地区で、正殿基壇の表面にヒビやゆがみが生じ、史跡内の施設の一部が壊れる被害がみられました。また、多賀城城外南東の館前地区では、丘陵の斜面に亀裂が入りました。現在、被害箇所には応急処置を施し、平成24年度中には修復工事を終える予定です。



館前地区の被害状況。9世紀前半頃の高級人の邸宅、または役所のような施設があったと推定されています。

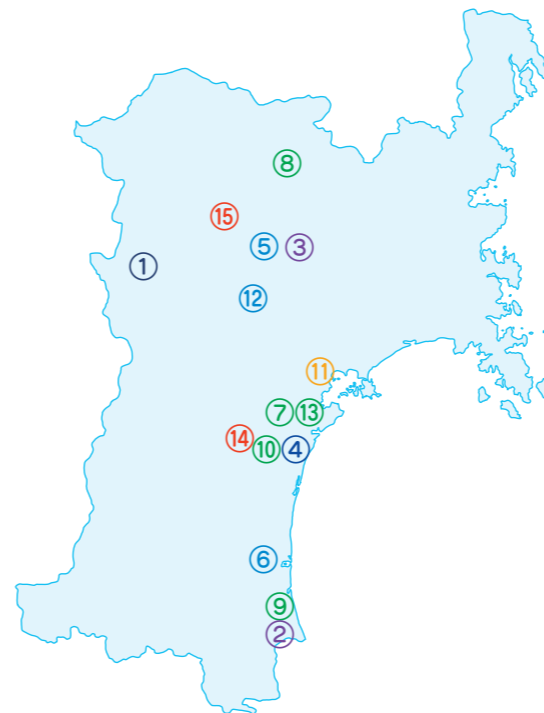


南門跡の南側が震災ごみの置き場となりました。

平成23年度 宮城の発掘調査パネル展

宮城県教育庁文化財保護課

宮城県には、旧石器時代から江戸時代まで6,171ヶ所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対しては、やむを得ず発掘調査を実施して記録に残すことにしています。このたび、平成23年度に行った発掘調査の中で、特に話題になった遺跡や遺物をパネルで紹介することにいたしました。また今回は、昨年度、東日本大震災により紹介できなかった遺跡や被災した遺跡も合わせて展示します。この機会に文化財に親しみ、文化財の保護に対して御理解を深めていただければ幸いです。今回の展示にあたって快く御協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



時代	世代	主な出来事	パネルの遺跡
旧石器時代	約700万年前	アフリカで人類が誕生する	①薬菜原 No.15遺跡(加美町)
	約50万年前	北京原人が洞窟で生活する	
	約3万年前	後期旧石器時代が始まる	
縄文時代	約1万5千年前	土器・弓矢が出現する	②西石山原遺跡(山元町) ③北小松遺跡(大崎市田尻)
	約5000年前	三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	
縄文時代	紀元前400頃	東北地方で米作りが始まる	④峯形遺跡(仙台市若林区)
	紀元後300頃	豪族が盛んに古墳を造る	
古墳時代	607	推古天皇、小野妹子を隋に遣わす(遣隋使)	⑤天神前遺跡(大崎市古川) ⑥松小路横穴墓群(巨理町)
	645	大化の改新	
奈良時代	710	平城京(奈良市)に都を移す	⑦・⑬特別史跡多賀城跡(多賀城市) ⑧城下遺跡(栗原市築館) ⑨内手遺跡(山元町) ⑩薬師堂東遺跡(仙台市若林区)
	724	多賀城が築かれる	
	752	東大寺の大仏が完成する	
	780	伊治公弼麻呂の乱が起こる	
平安時代	794	平安京(京都市)に都を移す	⑪瑞巖寺境内遺跡(松島町)
	869	陸奥国大地震で多賀城が大きな被害を受ける	
鎌倉時代	1167	平清盛が太政大臣となる	⑫山畑横穴群(大崎市三本木)
	1192	源頼朝が征夷大将軍になる	
室町時代	1274・1281	文永・弘安の役(元寇)	⑭史跡仙台城跡(仙台市青葉区) ⑮史跡及び名勝旧有備館及び庭園(大崎市岩出山)
	1338	足利尊氏が室町幕府を開く	
安土時代	1467	応仁の乱が起こる	⑯史跡仙台城跡(仙台市青葉区) ⑮史跡及び名勝旧有備館及び庭園(大崎市岩出山)
	1590	豊臣秀吉が全国を統一する	
江戸時代	1600	仙台城の築城が始まる	⑯史跡仙台城跡(仙台市青葉区) ⑮史跡及び名勝旧有備館及び庭園(大崎市岩出山)
	1603	徳川家康が江戸幕府を開く	
明治	1868	明治維新	

江戸時代

被災遺跡 **仙台城跡**



本丸北西石垣のうち約60mの範囲が崩落しました。

⑭史跡仙台城跡 (仙台市青葉区)

初代仙台藩主伊達政宗によって造られた仙台城では、本丸跡や三の丸跡などで石垣や櫓などが崩落・変形しました。現在は、本丸地区の一部区域が立ち入り禁止になっているほかは、公園として以前と同様に開放されています。今後は、平成24年度末の完了を目標に復旧工事を行う予定です。



仙台城の地形と主な被害箇所

被災遺跡 **旧有備館及び庭園**



倒壊した主屋(手前)および附属屋の屋根(奥)を保護しています。

⑮史跡及び名勝旧有備館及び庭園(大崎市岩出山)

岩出山伊達家の学問所である旧有備館及び庭園では、主屋が倒壊、屋根材が落下し、庭園園路に陥没や地割れが多く発生するなど、大きな被害を受けました。現在、主屋と附属屋の解体工事が行われています。今後はその復元と、庭園の復旧工事を行う予定です。



被災直後の主屋倒壊状況。

旧石器時代

日本海側からやってきた旧石器人



1～8: 東北地方の日本海側から運ばれた石材 9: 地元産の石材

①薬菜原 No.15遺跡 (加美町)

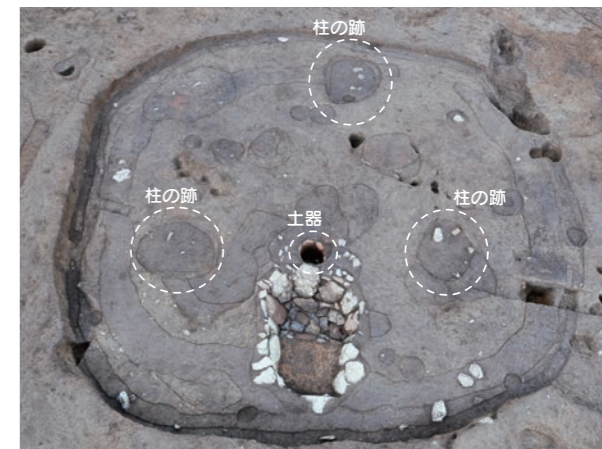
後期旧石器時代後半期(1.5～2万年前)の遺跡で、約1,200点もの石器が出土しました。石器の製作や焚き火をしていた場所と考えられています。石器のほとんどは、日本海側から運ばれた石材が使われており、当時の人々の足跡をたどる上で貴重な成果となりました。



集中して出土した多くの石刃や石核などは、日本海側から運ばれた石材が使われており、当時の人々の足跡をたどる上で貴重な成果となりました。

縄文時代

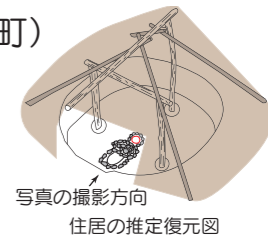
複式炉のある竪穴住居跡



発見された竪穴住居跡。手前見える炉の全長は約2mです。

②西石山原遺跡(山元町)

縄文時代中期末(約4000年前)の集落が発見されました。住居跡は5軒あり、この中で一番大きなものは直径が6mほどあります。住居内から、石を組み土器を埋めて作られた複式炉が見つかりました。火を焚く場所が複数ある複式炉は、この時期の東北地方南部に多くみられます。



協力(五十音順) 大崎市教育委員会(天神前遺跡・山畑横穴群・旧有備館及び庭園)、加美町教育委員会(薬菜原 No.15遺跡)、仙台市教育委員会(峯形遺跡・薬師堂東遺跡・仙台城跡)、多賀城跡調査研究所(多賀城跡)、松島町教育委員会(瑞巖寺境内遺跡)、巨理町教育委員会(松小路横穴墓群) 文化財保護課のホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm>

発掘現場から 埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から 文化財」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系統を使用しています。

縄文時代

骨角器にみる技と美



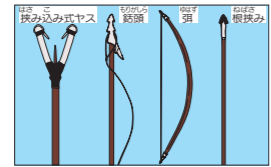
発見された骨角器はシカの角やイノシシの牙などを加工したものです。

③北小松遺跡(大崎市田尻)

縄文時代晩期(約2500年前)の集落の周辺に広がる沼地から、大量の骨角器が出土しました。彫刻が施されたものや漆塗りの装飾品もあり、縄文人の芸術性の高さがうかがえます。また、外洋で使用する魚とりの道具が内陸で発見されることは珍しく、当時の生活を考えるうえで貴重な資料です。



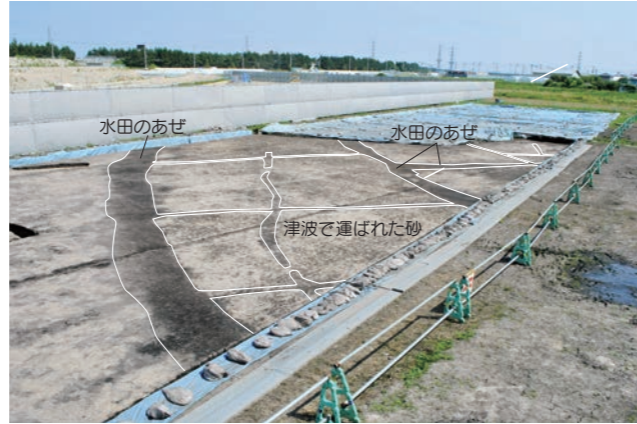
骨角器は土器や動物の骨と一緒に捨てられていました。



骨角器の使用イメージ図

弥生時代

弥生時代の津波



この水田跡は津波の被害を受けて廃絶したと考えられています。

④沓形遺跡(仙台市若林区)

弥生時代中期(約2,000年前)の水田跡が見つかりました。この水田跡は、津波で運ばれた砂の層に覆われていました。この層の広がりから、当時の海岸線から約4.2km内陸まで津波が達していたと想定されており、東日本大震災と同規模の津波が約2,000年前にも押し寄せていたことがわかりました。



遺跡と海岸線の位置。現在の海岸線から青線までが東日本大震災の津波範囲です。

奈良～平安時代

奈良時代の外郭東門跡を発見



発見された門跡の大きさは東西6m、南北10.5mです。復元予想図

⑦特別史跡多賀城跡(多賀城市)

奈良・平安時代の陸奥国府跡です。多賀城を区画する外郭の東辺中央部で、奈良時代の東門跡が新たに発見されました。門の柱を据えた穴は1辺が2m前後の大きなもので、柱の太さは約50cmと推定されています。今回発見された門跡の北側には別の東門跡が確認されており、多賀城の変遷を考える上で重要な発見です。



柱を据えた大規模な穴です。



発見された門跡の位置(南西から撮影)

火災住居から大量の遺物が出土



火災で焼けた柱材の一部が炭化して残っています。右奥には大量の土器があります。

⑧城下遺跡(栗原市築館)

8世紀後半の火災にあった竪穴住居跡が発見されました。住居内からは焼けた柱材のほか、大量の土器、鏝とみられる鉄製の武器、銅鏡、腰帯の飾り金具が出土しました。本遺跡の南西約1kmには、伊治城跡があることから、関係する役人または兵士の住居であったと考えられます。



出土した腰帯の飾り金具

県内2遺跡目の横口付木炭窯

⑨内手遺跡(山元町)

奈良・平安時代の炭窯を8基発見しました。うち1基は「横口付木炭窯」と呼ばれ、焼成室の横に出入口があり、そこから炭となる原木の窯詰めや、できあがった炭の取り出しが行われました。このような窯は、利府町の硯沢窯跡で2基みられるのみで、県内2遺跡目の貴重な発見となりました。



横口付木炭窯での炭焼きの様子「硯沢窯跡発掘調査現地説明会資料」(利府町教育委員会2008)より作成



全長は約4mです。鉄作りで用いる炭を焼いたと考えられています。

古墳～飛鳥時代

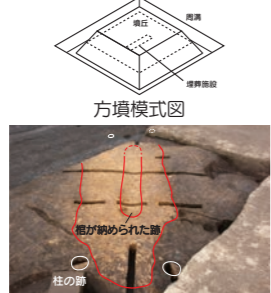
4世紀の古墳を発見!



2号墳。墳丘は一辺約16mで周溝は幅3m、深さ1mです。(北西から)

⑤天神前遺跡(大崎市古川)

古墳時代前期(4世紀頃)の方墳4基からなる古墳群を発見しました。うち1基では、溝に囲まれた墳丘の中央に埋葬施設があり、棺が納められた跡や、それを囲む柱の跡が見つかりました。墳丘内の柱の跡の詳細は不明ですが、これまで県内で確認されておらず、前期古墳の構造や埋葬方法を知る上で重要な手がかりが得られました。



棺が納められた跡は長さ4.4m、幅0.6m程で、丸太を割り抜いた棺が納められたと考えられています。(南西から)

新たに21基の横穴墓を発見



丘陵斜面を掘り込んでつくられた横穴墓には、何世代もの人々が埋葬されたようです。

⑥桜小路横穴墓群(巨理町)

飛鳥・奈良時代(7～8世紀頃)の墓を21基発見しました。隣接する横穴墓群や未確認のものを含めると、100基を超える横穴墓群になると推定されます。アクセサリーや武器(釵手刀など)、土器が副葬されており、当時の巨理地方の有力者とその一族が葬られたと考えられます。



釵手刀は柄の形がワラビに似ており、東北や北海道で多く発見されています。



アクセサリーの玉類

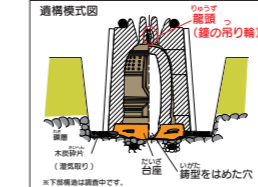
陸奥国分寺復興の鐘



寺の鐘を造った遺構の発見は、県内初で、東北最古の例です。

⑩薬師堂東遺跡(仙台市若林区)

特別史跡陸奥国分寺跡の南東に隣接する遺跡で、寺の鐘を造った遺構を発見しました。この鐘は、遺物の年代や文献の記述などから、貞観11(869)年の大地震で被害を受けた陸奥国分寺の復興にともなって造られたと考えられています。



出土した鑄型に似た龍頭 龍頭の鑄型の一部(宇治市称名寺の鐘)

鎌倉～室町時代

よみがえる中世の大寺院



土台の縁から斜め45度に石を敷き詰めた「四半敷」がみられます。中世寺院では東北初の発見です。

⑪瑞巖寺境内遺跡(松島町)

伊達政宗が再興した瑞巖寺の本堂の下から、その前身である円福寺(13世紀中頃創建)の僧室と法堂の一部を発見しました。僧の修行の場である僧室の床は、当時の格式高い禅宗寺院で採用された「四半敷」で舗装されています。鎌倉・室町幕府の厚い庇護を受けたことを裏付ける貴重な成果となりました。



「遊行上人縁起絵」に描かれた中世の円福寺(金蓮寺蔵:東北歴史博物館2005「日本三景展」より)

用語解説

- ◆国府: 国を治める役所。陸奥国は多賀城に置かれた。
◆国分寺: 相次ぐ社会不安を仏教の力でおさめるため、聖武天皇の発願により全国に建立された寺。陸奥国分寺は8世紀中頃に創建された。
◆遊行上人縁起絵: 「一遍上人絵伝」の1つ。時宗の開祖である一遍の生涯を描いた絵巻。